記 者 発 表

令 和 ７ 年 ９ 月 ２ ４ 日
北 上 川 下 流 河 川 事 務 所

官民合同現場研修会の開催について

鹿島台出張所管内の工事を受注している工事施工業者の株式会社丸本組と鹿島台出張所の合同において、宮城県内の若手職員等を対象とした現場研修会を開催します。

本現場研修会は、AR/MR(拡張現実/複合現実)といったICT技術を駆使した現場の見える化や業務の効率化の取組みを体験します。

■開催日時
令和７年９月２９日（月） １３時３０分～１５時３０分

■開催場所
国土交通省 北上川下流河川事務所 鹿島台出張所

■参加者（予定）
宮城県内国交省職員１５名、大崎市職員３名、美里町職員１名、
株式会社丸本組社員６名　計２５名　程度

■開催内容
鹿島台出張所会議室にて工事概要の説明後、２班に分かれて「複合体験ブース」「AR ブース」を交互に体験いただきます。（詳細は別添参照）

管内の情報は次の URL からご覧になれます。

〇北上川下流河川事務所 Web サイト URL　https://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/

〈発表記者会〉石巻記者クラブ、古川記者クラブ

問い合わせ先

東北地方整備局北上川下流河川事務所
鹿島台出張所　出張所長　長岐（ながき） 岳彦（たけひこ）
電話：０２２９－５６－２６１７

株式会社　丸本組　現場代理人　佐藤（さとう） 大峰（ひろたか）
髙橋（たかはし） 哲也（てつや）
監理技術者　相澤（あいざわ） 秀行（ひでゆき）
電話：０２２９－２５－３０１２

別添

北上川下流河川事務所（官民合同）現場研修会

現場の“見える化”と“効率化”が拓く、新しい働き方

北上川下流河川事務所　鹿島台出張所
株式会社　丸本組

◆開催日時　令和７年９月２９日（月）１３時３０分～１５時３０分

◆開催場所　北上川下流河川事務所　鹿島台出張所

◆次第

1. 工事概要説明

・鹿島台出張所長　挨拶

・工事内容説明
練牛下流地区地盤対策工事
練牛地区河道掘削外工事

2. 研修会

◆研修者は2班に分かれ、「複合体験ブース」と「ARブース」を交互に体験していただきます。
各班には案内役が付き、順番にブースを回っていただきますので、スタッフの指示に従ってご移動ください。

複合体験ブース	2-1.ＡＩダッシュボードの利用（作業の最適化）	（ 屋内 ）	（ 5 ） 分
	2-2.当社バックオフィスの取り組み （現場業務の効率化・現場担当者の余裕時間創出） ・現場を支えるしくみとその役割	（ 屋内 ）	（ 15 ） 分
	2-3.3Dプリンター技術の実演と解説 ・３Ｄプリンターで製作した集水桝の展示	（ 屋外 ）	（ 15 ） 分
	2-4.LiDAR技術を活用した空間スキャン・計測機能の体験	（ 屋外 ）	（ 10 ） 分
	合計（移動時間：5分加算）		**（ 50 ） 分**
ARブース	2-5.AR/MR（拡張現実／複合現実）ソリューション実演	（ 屋内 ）	（ 50 ） 分
	合計		**（ 50 ） 分**

3. 総評
・北上下流河川事務所　副所長

2-1 ＡＩダッシュボードの利用（作業の最適化）

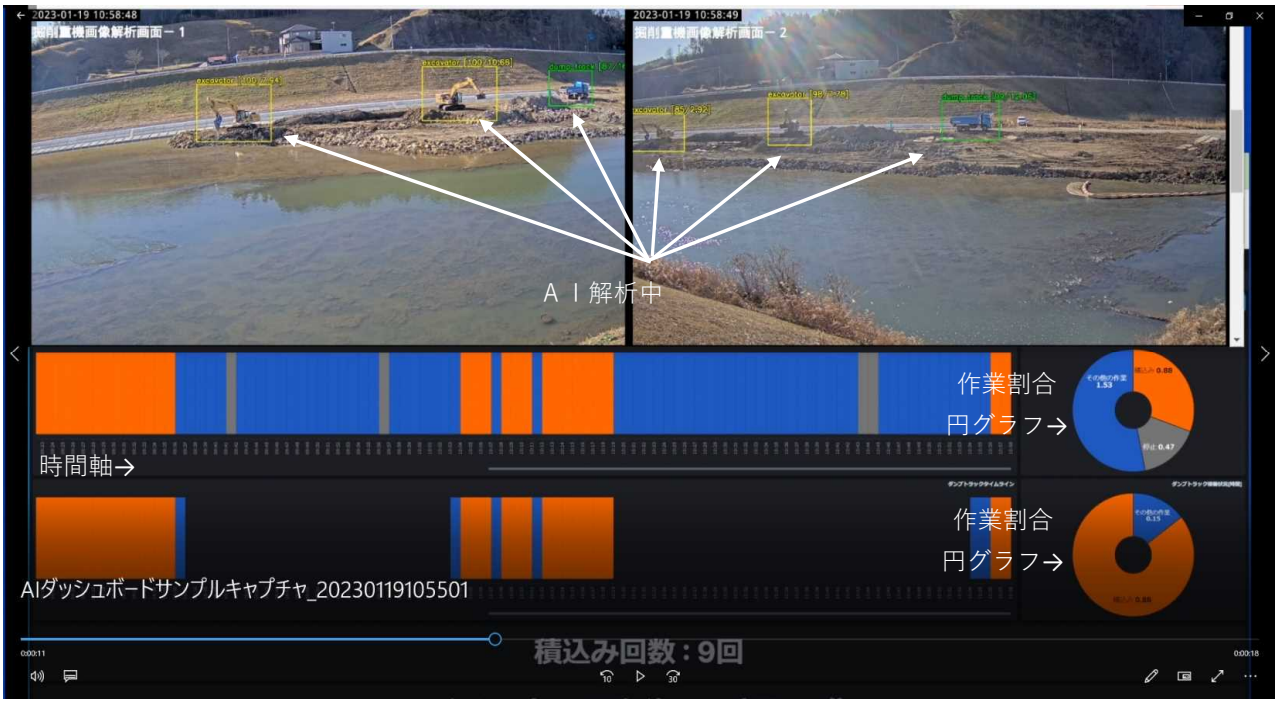
重機の河道掘削箇所をＡＩカメラを設置し、重機の作業状況を積込・停止・その他作業をＡＩにより画像を解析し、【可視化】することで作業の無理･無駄を把握し、作業計画の改善・検討に役立てることにより、<u>生産性向上、作業の最適化を目指します。</u>
リアルタイムで現場事務所で解析状況が確認できるのでその技術について紹介します。

現場の映像データから
重機(バックホウ)の作業状態を自動で分類


積込


停止


その他作業



説明
・黄色四角枠、緑色四角枠がＡＩ画像解析中

凡例

その他の作業　積み込み作業　停止

2-2 当社バックオフィスの取り組み

2024年4月から時間外労働時間の上限規制の法改正に伴い、工事現場で働く技術者の【働き方の見直し、促進】が必要となりました。弊社では【バックオフィスチーム】を発足し現場が抱える書類業務の支援を行うことで現場技術者の長時間労働の軽減できる組織づくりに取り組んでおり、取り組み内容と成果について紹介します。



2-3 3Dプリンター技術の実演と解説

建設業において人手不足や工期短縮、コスト削減といった課題を解決する手段として3Dプリンターの活用が注目されています。今回の現場見学会において、ミニ３Ｄプリンター実演や実際使用されている製品を展示し、紹介します。
ミニ３Ｄプリンター実演→国土交通省マーク製作
現場展示：集水桝



ミニ３Ｄプリンター製作例：テトラポット、迫桜高校マーク



３Ｄプリンター製作例：法留ブロック

2-4 LiDAR技術を活用した空間スキャン・計測機能の体験

LiDAR技術を活用した空間スキャン・計測機能の体験を現場で実演します。
対象物は、車輌もしくは重機バックホウで行い、LiDAR技術を活用し、リアルタイムで点群を取得する状況を実演、モニターにて確認します。

LiDAR機能を使用した出来形測定



〈Lider機能で取得した点群データから寸法を測定〉



〈ブロック体積を測定〉

LiDAR技術を活用した出来形測定例

2-5 AR/MR（拡張現実／複合現実）ソリューション実演１、２

実物大の構造物を現地に投影でき、経験の浅い若手職員や新規入場者でも工事の完成イメージすることができます。また、施工ステップ毎にモデルを投影し、施工手順や進捗管理にも活用できます。
室内でも、事前検討などに活用でき、安全対策や品質向上さらに工程短縮などの生産性向上にも期待できます。このＡＲ／ＭＲ技術について紹介します。
実演❶：大型ボックスエ事現場を実体験、実演２：工事盛土箇所の完成イメージ共有（予定）









①現場見学会やイメージの共有
②作業計画などの検討や確認
③位置出しや配筋確認
④人材育成・教育研修

空から見える、
いい仕事。